



2022年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年2月10日

上場会社名 関東電化工業株式会社
 コード番号 4047 URL <https://www.kantodenka.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長谷川 淳一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員法務・総務部長 (氏名) 増島 亮司

TEL 03-4236-8801

四半期報告書提出予定日 2022年2月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	44,764	19.6	8,013	122.2	8,001	129.5	5,616	183.9
2021年3月期第3四半期	37,426	7.7	3,607	42.9	3,486	46.0	1,978	52.2

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 5,753百万円 (78.6%) 2021年3月期第3四半期 3,221百万円 (22.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	97.76	
2021年3月期第3四半期	34.41	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	106,687	57,293	52.1	967.99
2021年3月期	92,324	52,423	55.2	887.42

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 55,609百万円 2021年3月期 50,980百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期		7.00		7.00	14.00
2022年3月期		8.00			
2022年3月期(予想)				14.00	22.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	62,000	19.4	10,800	90.5	10,500	88.1	7,300	102.5	127.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	57,546,050 株	2021年3月期	57,546,050 株
期末自己株式数	2022年3月期3Q	96,900 株	2021年3月期	98,474 株
期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	57,448,354 株	2021年3月期3Q	57,486,769 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、[添付資料]3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記.....	4
(1) 四半期連結貸借対照表.....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	6
(四半期連結損益計算書).....	6
(四半期連結包括利益計算書).....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	8
(継続企業の前提に関する注記).....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用).....	8
(会計方針の変更).....	8
(セグメント情報).....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果により持ち直しの動きがみられたものの、依然として厳しい状況にありました。海外においても、新型コロナウイルス感染症の感染再拡大がサプライチェーンや経済活動に与える影響に加え、金融資本市場の変動等についても留意する必要があります。先行き不透明な状況が続きました。

このような事業環境のもと、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、主に精密化学品事業部門が増収となったため、447億64百万円と前年同期に比べ73億37百万円、19.6%の増加となりました。損益につきましては、売上高の増加に加え、前年同期は電池材料において棚卸資産評価損を計上したこともあり、経常利益は80億01百万円と前年同期に比べ45億15百万円、129.5%の増加となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は56億16百万円と前年同期に比べ36億37百万円、183.9%の増加となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。この結果、従来の会計処理と比べ、売上高は447百万円減少し、売上原価は378百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ68百万円減少しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

① 基礎化学品事業部門

か性ソーダおよび塩酸は、販売価格は低下したものの販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。

有機製品につきましては、トリクロールエチレンは、販売数量の増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。パークロールエチレンは、販売数量は減少したものの価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、基礎化学品事業部門の売上高は、56億88百万円となり、前年同期に比べ15億67百万円、38.0%の増加となりました。営業損益につきましては、営業損失55百万円となりました(前年同期は営業損失2億13百万円)。

② 精密化学品事業部門

半導体・液晶用特殊ガス類につきましては、三フッ化窒素は、前年同期並みの売上高となりました。六フッ化タンゲステンは、販売数量は増加したものの販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンは、販売価格は低下したものの販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。

電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量の増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、精密化学品事業部門の売上高は、351億54百万円となり、前年同期に比べ59億23百万円、20.3%の増加となりました。営業損益につきましては、前年同期は主に電池材料において棚卸資産評価損を計上したこと等もあり、営業利益70億89百万円となり、前年同期に比べ36億19百万円、104.3%の増加となりました。

③ 鉄系事業部門

複写機・プリンターの現像剤用であるキャリアーは、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。鉄酸化物は、着色剤の販売増加により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、鉄系事業部門の売上高は、19億17百万円となり、前年同期に比べ6億35百万円、49.5%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益4億02百万円となり、前年同期に比べ2億71百万円、207.2%の増加となりました。

④ 商事事業部門

商事事業につきましては、当期より収益認識に関する会計基準を適用した影響等により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、商事事業部門の売上高は、5億94百万円となり、前年同期に比べ12億17百万円、67.2%の減少となりました。営業損益につきましては、営業利益1億45百万円となり、前年同期に比べ46百万円、46.4%の増加となりました。

⑤ 設備事業部門

化学設備プラントおよび一般産業用プラント建設の売上高は、請負工事の増加により前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、設備事業部門の売上高は、14億09百万円となり、前年同期に比べ4億28百万円、43.7%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益3億73百万円となり、前年同期に比べ1億94百万円、108.5%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金や有形固定資産が増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ143億62百万円増加し、1,066億87百万円となりました。

負債は、借入金が増加したことなどから94億92百万円増加し、493億94百万円となりました。

純資産は、利益剰余金が増加したことなどから48億69百万円増加し、572億93百万円となりました。自己資本比率は、前連結会計年度末の55.2%から52.1%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期通期業績予想につきましては、2021年11月12日付にて公表しました業績予想を修正しております。あわせて、配当予想も修正しております。詳しくは、別途公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,684	29,171
受取手形及び売掛金	13,804	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	16,438
電子記録債権	1,003	1,351
商品及び製品	4,294	5,042
仕掛品	3,737	3,846
原材料及び貯蔵品	2,543	3,081
その他	1,703	3,047
貸倒引当金	△69	△66
流動資産合計	50,700	61,914
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,838	8,921
機械装置及び運搬具（純額）	13,663	12,117
その他（純額）	8,928	13,864
有形固定資産合計	31,430	34,903
無形固定資産		
	681	686
投資その他の資産		
投資有価証券	7,845	7,496
繰延税金資産	997	1,090
その他	671	600
貸倒引当金	△2	△3
投資その他の資産合計	9,512	9,183
固定資産合計	41,624	44,772
資産合計	92,324	106,687

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,868	7,681
電子記録債務	735	1,415
短期借入金	4,390	4,319
1年内返済予定の長期借入金	5,304	5,282
未払法人税等	551	1,581
役員賞与引当金	79	53
その他	3,807	4,949
流動負債合計	20,738	25,282
固定負債		
長期借入金	17,049	21,916
役員退職慰労引当金	128	137
役員株式給付引当金	6	9
退職給付に係る負債	1,704	1,825
その他	273	222
固定負債合計	19,163	24,111
負債合計	39,901	49,394
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,877	2,877
資本剰余金	1,829	1,829
利益剰余金	43,584	48,337
自己株式	△70	△68
株主資本合計	48,221	52,975
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,817	2,551
為替換算調整勘定	△214	△71
退職給付に係る調整累計額	156	153
その他の包括利益累計額合計	2,759	2,634
非支配株主持分	1,443	1,683
純資産合計	52,423	57,293
負債純資産合計	92,324	106,687

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	37,426	44,764
売上原価	27,998	30,404
売上総利益	9,428	14,360
販売費及び一般管理費	5,821	6,346
営業利益	3,607	8,013
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	205	203
保険解約返戻金	54	—
為替差益	—	94
その他	124	212
営業外収益合計	386	513
営業外費用		
支払利息	142	206
為替差損	76	—
デリバティブ評価損	23	88
試作品売却損	231	179
その他	33	49
営業外費用合計	507	524
経常利益	3,486	8,001
特別利益		
投資有価証券売却益	—	131
特別利益合計	—	131
特別損失		
固定資産除却損	91	29
投資有価証券評価損	360	—
特別損失合計	452	29
税金等調整前四半期純利益	3,034	8,103
法人税等	938	2,294
四半期純利益	2,095	5,808
非支配株主に帰属する四半期純利益	117	192
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,978	5,616

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
四半期純利益	2,095	5,808
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,349	△202
為替換算調整勘定	△228	149
退職給付に係る調整額	4	△2
その他の包括利益合計	1,125	△54
四半期包括利益	3,221	5,753
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,101	5,491
非支配株主に係る四半期包括利益	120	262

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によって計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。この収益認識会計基準等の適用による主な変更点は、以下のとおりです。

(代理人取引に係る収益認識)

商事事業における一部の取引について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における商事事業の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。

なお、これにより連結損益計算書に与える影響はありませんが、「(セグメント情報等) 3. 報告セグメントの変更等に関する事項」の注記に記載の通り、「基礎化学品事業」「精密化学品事業」「鉄系事業」「商事事業」のセグメント別の売上高に影響が生じております。

(工事契約等に係る収益認識)

設備事業における工事契約等に関して、従来は工事完成基準を適用しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首より履行義務を充足するにつれて、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。なお、履行義務の充足に係る進捗率の合理的な見積りができない工事については、原価回収基準を適用しております。

(製品の輸出販売に係る収益認識)

製品の輸出販売について、従来は主に船積基準により収益を認識しておりましたが、主にインコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転した時に収益を認識することとしております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は447百万円減少し、売上原価は378百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ68百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号 2020年3月31日）第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,120	29,231	1,282	1,811	981	37,426	—	37,426
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	865	298	22	2,952	1,938	6,077	△6,077	—
計	4,986	29,529	1,304	4,764	2,919	43,504	△6,077	37,426
セグメント利益又は 損失(△)	△213	3,469	131	99	179	3,666	△59	3,607

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△59百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	5,688	35,154	1,917	594	1,409	44,764	—	44,764
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	0	1,010	2,255	3,266	△3,266	—
計	5,688	35,154	1,917	1,605	3,665	48,030	△3,266	44,764
セグメント利益又は 損失(△)	△55	7,089	402	145	373	7,955	58	8,013

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額58百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載の通り、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の「基礎化学品事業」の(1)外部顧客への売上高は905百万円増加、(2)セグメント間の内部売上高又は振替高は905百万円減少、その結果売上高合計の増減はありません。

「精密化学品事業」の(1)外部顧客への売上高は69百万円減少、(2)セグメント間の内部売上高又は振替高は311百万円減少、その結果売上高合計は381百万円減少、セグメント利益は68百万円減少しております。

「鉄系事業」の(1)外部顧客への売上高は71百万円増加、(2)セグメント間の内部売上高又は振替高は71百万円減少、その結果売上高合計の増減はありません。

「商事事業」の(1)外部顧客への売上高は1,289百万円減少、(2)セグメント間の内部売上高又は振替高は2,731百万円減少、その結果売上高合計は4,020百万円減少しております。

「設備事業」の(1)外部顧客への売上高は66百万円減少、(2)セグメント間の内部売上高又は振替高は316百万円増加、その結果売上高合計は250百万円増加しております。

なお「基礎化学品事業」、「鉄系事業」、「商事事業」、「設備事業」のセグメント利益に与える影響はありません。